第３章　都市づくりの課題

１．都市づくりに向けて捉えるべき動向

１－１　現況調査からの捉えるべき動向

本市の現況調査から、都市づくりに向けて捉えるべき特性を次のように整理します。

■統計データから見た津市の特性

項　目	捉えるべき特性（問題点等）
①人口等の動向の特性	■国勢調査による本市の総人口は、平成 27 年に 279,886 人で、平成 17 年の 288,538 人をピークに減少 ■年齢構成別では、「20～29 歳」の人口減少（流出）が顕著 ■流出地域としては、愛知県、東京都、大阪府が多く、流入地域としては、松阪市、伊勢市が多い ■市街化調整区域や都市計画区域外の一部で人口が増加 ■人口密度が高い市中心部で人口が減少 ■世帯数は増加しており、低密度化が進行 ■現時点で約４人に１人が高齢者で、今後も増加と予測 ■地域別では、美里地域、白山地域、美杉地域の中山間部の高齢化が顕著
②産業動向に関する特性	■就業者人口は、第三次産業の割合が約７割と最も多い ■農業は、農家数、経営耕地面積ともに減少 ■工業は、事業所数、従業者数は減少している一方、１事業所当たりの製造品出荷額等は近年増加 ■商業は、従業者数は横ばいである一方、年間商品販売額や店舗数は減少
③土地利用（開発動向等）に関する特性	■有効活用が見込める市街化区域内の未利用地は約 930ha 残存するが、そのうちの多くが2ha 未満 ■工業系用途地域内をみると遊休土地を含め市街化区域内の未利用地が約 290ha 残存 ■開発動向は、市街化区域内での開発が多いものの、市街化調整区域内や都市計画区域内の非線引き地域でも一定の開発が進行 ■市内に約 4,000 戸の空き家が存在しており、津地域に多くの空き家が分布 ■地価は、各地点において下落しているが、中心部の一部地点において上昇
④移動に関する特性	■通勤・通学の移動実態は、市内が 75%以上と高い ■通勤・通学の市外流出は、鈴鹿市、松阪市、四日市市が多く、流入は、松阪市、鈴鹿市が多い ■市内の移動は、津地域への通勤が多く、買い物や通院は津地域、久居地域、河芸地域が多い ■市内の移動手段は、自動車の割合が非常に高く、郊外ほどその傾向は顕著

■施設分布、防災から見た津市の特性

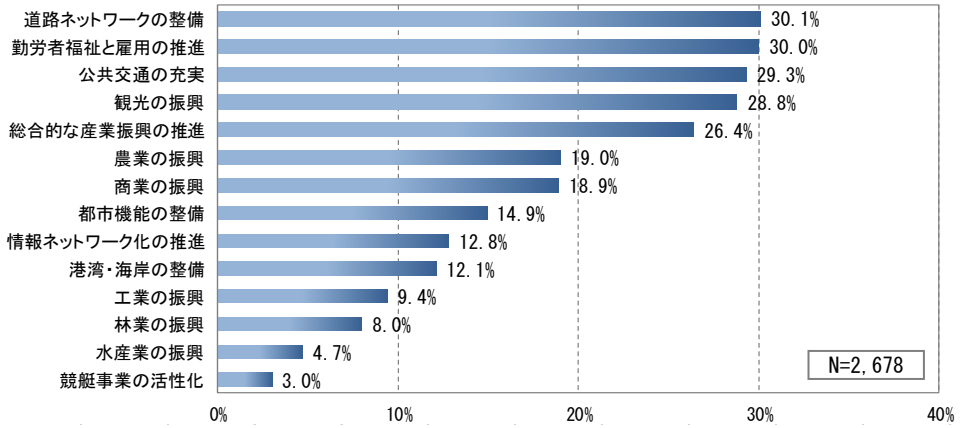
項　目	捉えるべき特性（問題点等）
⑤施設整備に関する特性	■行政サービス施設、教育施設、医療施設などは、比較的市街化区域内に多く立地 ■福祉施設は、民間施設も含めると市内に網羅的に立地 ■施設周辺の人口密度は、現時点で低い地域がみられる ■下水道施設は、一部都市計画区域外にも計画区域がみられる
⑥防災に関する特性	■沿岸部の多くが標高２m未満の地域 ■三重県の予測として、沿岸部の広い範囲が津波浸水想定区域に設定されている ■河川沿いの市街地において、過去の豪雨による浸水被害の実績がみられる ■市街地の一部地域に急傾斜地崩壊危険区域が指定されているほか、今後、土砂災害警戒区域が指定される見込み

1－2　関係調査における意向等の把握

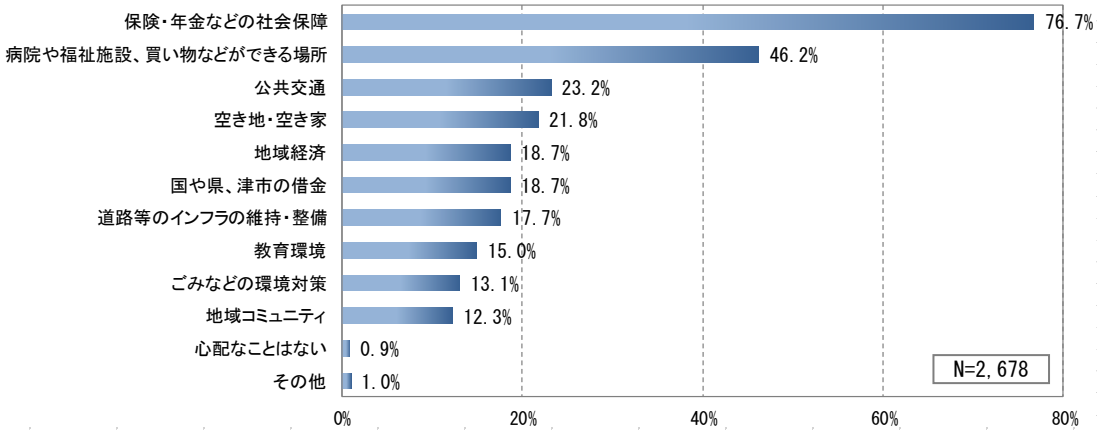
（1）市民意識調査

本市まちづくりにおいて、優先度が高い取組などを整理すると次のような特性がみられます。

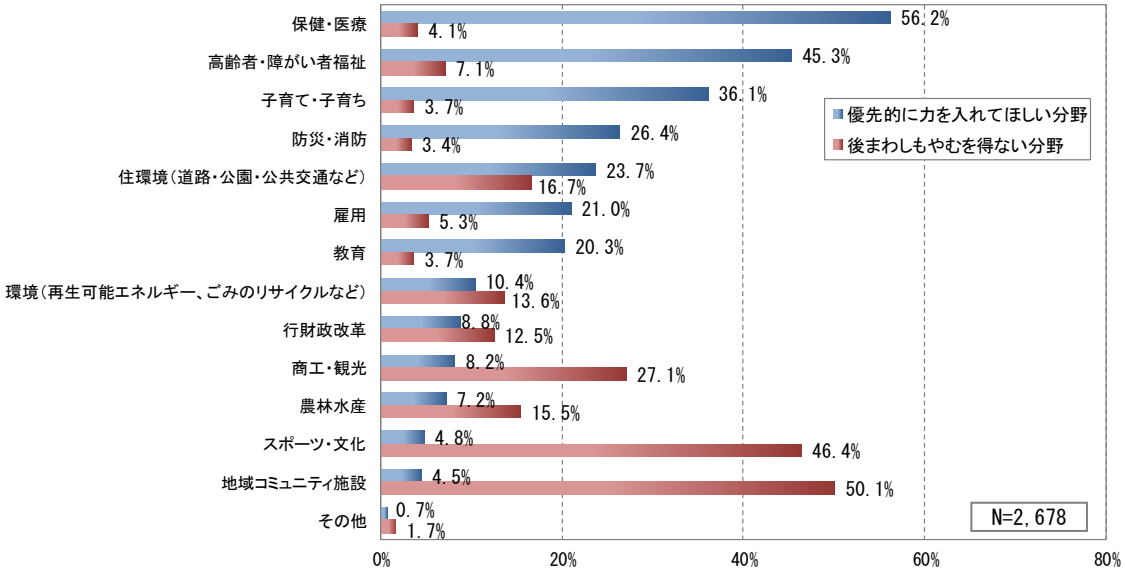
■まちづくりの目標「活力のあるまちづくり」に寄与する取組として、回答が多かったのは**「道路ネットワークの整備」**や**「勤労者福祉と雇用の推進」**となっています。



■今後の生活で心配に思うことについて、回答が多かったのは**「保険・年金などの社会保障」**や**「病院や福祉施設、買い物などができる場所」**となっています。

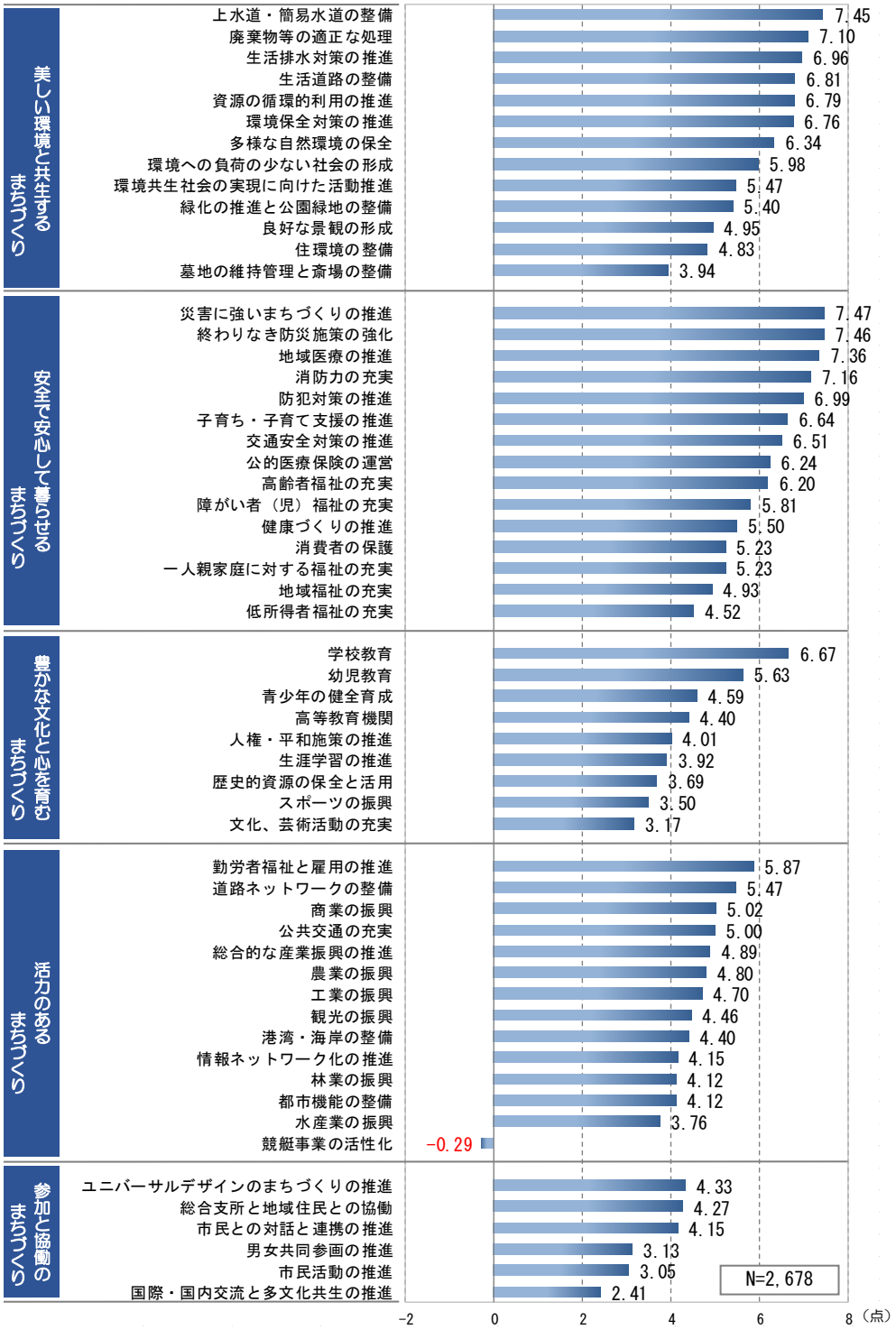


■限られた財源の中で、優先性の高い分野として回答が多かったのは、**「保健・医療」**や**「高齢者・障がい者福祉」**といった医療・福祉関連となっています。一方で、**「地域コミュニティ施設」**や**「スポーツ・文化」**は優先性が低くなっています。



資料：津市総合計画策定のための市民意識調査（H28）

■“美しい環境と共生するまちづくり”に資する取組としては、**「上水道・簡易水道の整備」**が最も高く、次いで**「廃棄物等の適正な処理」**の重要度が高くなっています。
■“安全で安心して暮らせるまちづくり”に資する取組としては、**「災害に強いまちづくりの推進」**が最も高く、次いで**「終わりなき防災施策の強化」**であり、災害に対する防災関連の取組の重要度が高くなっています。
■“豊かな文化と心を育むまちづくり”に資する取組としては、**「学校教育」**が最も高く、次いで**「幼児教育」**であり、教育関連の取組の重要度が高くなっています。
■“活力のあるまちづくり”に資する取組としては、**「勤労者福祉と雇用の推進」**が最も高く、次いで**「道路ネットワークの整備」**の重要度が高くなっています。
■“参加と協働のまちづくり”に資する取組としては、**「ユニバーサルデザインのまちづくりの推進」**が最も高く、次いで**「総合支所と地域住民との協働」**の重要度が高くなっています。



資料：津市総合計画策定のための市民意識調査（H28）

（２）関係団体アンケート調査等の結果

関係団体アンケート調査・庁内関係課調査・地域の意見・市民ワークショップの意見などから捉えるべき特性を整理すると、次のようになります。

■各種調査結果から見た捉えるべき特性

項　目	捉えるべき特性（問題点等）
①関係団体アンケート調査	■市街化調整区域の開発許可、開発に係る規制の緩和が必要 ■津波、土砂災害などの発生を危惧しなくて良い場所への移転が必要 ■津波や河川氾濫などの災害時における避難経路確保が必要 ■緊急車両通行のための狭小幅員道路の拡幅などの整備が必要 ■既存路線バス以外に地域コミュニティバスなどの充実による各施設へのアクセス向上が必要 ■若年層の採用難や従業員の高齢化といった雇用問題の深刻化への対応が必要 ■核となる商業施設など、集客力のあるスポットの設置が必要 ■大規模な公園など、人が集まるスポットの設置が必要
②庁内関係課調査	■少子高齢化が進展する中で、子育て世代や高齢者などが安全に安心して暮らせるまちづくりの推進が必要 ■進行する人口減少に歯止めをかけるためにも、安全で利便性の高い地域への魅力的な住宅地の形成が必要 ■人口減少、地域間格差の拡大、コミュニティの脆弱化などの問題に対し、地域主導で持続可能な地域活性化が図れる取組が必要 ■地域住民が住み慣れた地域で安心して暮らすために、医療・福祉施設などの生活利便施設の確保に向けた取組が必要 ■雇用創出に向けた産業振興に向け、飽和傾向にある工業用地に関する柔軟性の高い用地の確保が必要 ■津インターチェンジ周辺に関しては、優良な農地が広がる現状や法規制などの前提条件を考慮しつつ、位置的ポテンシャルを活かした土地の有効活用に向け、その実現に向けた工夫や考え方を整理することが必要 ■道路網については、津市道路整備計画との整合を図りつつ、円滑な交通を確保し、さらに、生活道路については、交通安全の確保を図るための整備が必要 ■既存の道路については、津市舗装維持管理計画や津市橋梁長寿命化修繕計画などに基づき、適切な維持管理や補修が必要 ■都市構造や住民ニーズの変化に合わせた公園の見直しが必要 ■海上交通、鉄道、幹線・支線バスなどの連携による一体的な公共交通ネットワークを形成することが必要 ■老朽化が進む市営住宅については、計画的な用途廃止と集約化が必要 ■津市公共施設等総合管理計画に基づく、公共施設の最適化が必要 ■旧津市体育館、旧津市民プール、旧三重武道館については、跡地利用を検討することが必要 ■人口減少や住民のニーズの変化に合わせ、学校や保育施設の規模適正化の検討が必要 ■整備が進められている沿岸部の堤防整備については、今後も関係機関に働きかけを行っていくことが必要 ■津波の災害リスクを有する沿岸部などの地域において、地域防災力の強化に向けた取組を検討していくことが必要 ■豊富な森林資源を循環利用しつつ、地域産材の利用拡大と地域産業の活性化を図ることが必要

■各種調査結果から見た捉えるべき特性

項　目	捉えるべき特性（問題点等）
③地域の意見	■路線バス、コミュニティバスの乗り継ぎ（バス、鉄道）の円滑化や区域拡大が必要 ■通学路の安全確保のため、整備が必要 ■拠点間を結ぶ道路や観光地へのアクセス道路の拡幅整備が必要 ■国道23号中勢バイパスの渋滞緩和のため、４車線化が必要 ■自転車道の整備が必要 ■公園利用者のニーズに合った整備が必要 ■排水対策のため、公共下水道や河川改修、排水ポンプなどの整備が必要 ■海岸整備事業の推進が必要 ■景観に配慮したまちづくりが必要 ■観光地の魅力向上のための環境整備が必要 ■避難場所の確保と、避難時に必要な案内表示の充実が必要 ■空き家対策、空き店舗対策が必要
④市民ワークショップの意見	（平成28年度の意見：主に市全域的な意見） ■人口減少などでも元気な津市の継続に向けては、都市の拡大や縮小という枠組みではなく、地域資源の活用やコミュニティ形成が重要 ■地域資源を活かしながら個々の地域の魅力を高め、個々の地域を公共交通などのネットワーク化を図ることで、中心市街地と地域の双方の活性化、高齢者の外出機会の増大などがより進むと思う ■本市の固有資源である三重県の公共施設や、津城、大学、自然環境などの最大限の活用も必要 ■狭あいな道路の拡幅整備や資源維持に関わる最低限のハード面の整備と合わせ、多様な来訪者に資源の良さを実感してもらうための一体的な情報提供が必要 ■過剰投資にならないよう最低限必要な整備（地域資源にアクセスする道路、地域資源の清掃・除草等）の選択が必要となるが、効果的な整備を選択するためにも、検討する地域の組織が必要 ■市役所や大学、図書館などの公共施設や百貨店などは駅周辺、子育て機能や福祉機能を有する施設は居住地周辺に必要であるほか、大規模店舗は郊外が望ましい ■分散すべき施設と集約すべき施設については、明確な基準を持って分類をすることが必要 ■行政と地域とが両輪で災害に対応していくことが重要であるほか、地域ごとに防災意識のレベルに差がみられるため、それに応じたきめ細かな施策検討が必要 ■「自分の安全は自分で守る」、「地域の安全も地域で守る」といった事が基本であり、公助よりも先に、まずは自助・共助を高めるため、地域内でのコミュニケーションの機会を多く設けることが必要 （平成29年度の意見：主に地域的な意見） ■支所周辺の公共施設の有効活用（市民へ会議室等を開放等）が必要 ■津市産業・スポーツセンターを活かした、津インターチェンジ周辺の交流拠点としての魅力創出が必要 ■津駅周辺において、まちの玄関口であることを意識した空間形成が必要 ■既存公園内への憩い空間やイベントなどの実施ができる空間の創出が必要 ■久居駅周辺について、新たな施設整備と合わせた回遊性の確保が必要 ■市の中心部へ向かう公共交通の確保や鉄道とバスの接続性の確保が必要 ■地域資源をつなぐコースづくりや休憩所の確保が必要 ■空き家の有効活用（農村宿泊施設やグループホーム等）が必要

2．都市づくりの課題

国勢調査による本市の総人口は、平成 17 年の 288,538 人をピークに減少し、同時に少子高齢化も進展しており、これらの状況は、本市のみならず、全国的な現象となっています。

人口減少は、都市の低密度化を進行させ、その影響により商業施設や医療施設など日常的な生活サービス施設の維持が困難になることが懸念されています。一方で、今までの都市づくりによって整備した道路・公園などの都市基盤や、市内各所に点在する公共施設については、施設の維持管理費や更新費が多額となり、人口減少や財政状況などを考慮すると、現状のまま維持し続けることは困難になると予想されます。本市としても、これらの状況を踏まえたなかで、持続可能で効率的な都市づくりを進めていく必要があります。

また、平成 23 年に発生した東日本大震災では、津波の襲来により都市の沿岸部に多くの被害をもたらしました。本市においても、発生が想定されている南海トラフ地震や、近年頻発している集中豪雨などの災害リスクに対応した、皆が安全で安心して暮らせる都市づくりを進めていくことが重要です。

さらに、平成 18 年の 10 市町村による市町村合併により、本市は“都市”、“海”、“緑”といった多くの地域資源を有しており、それら地域資源によって、地域の魅力と活力が創出される取組の推進が重要です。

そうした本市の現状や都市を取り巻く潮流を踏まえ、都市づくりの課題を次のように整理します。

■都市づくりの課題

項　目		都市の現況・特性からの課題
持続可能な都市の形成		①公共施設の配置や総量の適正化と有効利用
		②生活サービス施設の維持に向けた人口密度の維持・誘導
		③公園、緑地の効果的な維持・充実
		④環境負荷の少ない市街地の整備
安全・安心な都市の形成		⑤命を守る施設の整備・保全
		⑥安全な場所への土地利用誘導
		⑦災害時に配慮した防災拠点の機能強化
		⑧災害リスクの明示等による防災の周知・啓発
		⑨市街化区域の歩行者、自転車の安全確保（主に鉄道駅、住宅地周辺の歩道未設置区間）
定住促進		⑩市内にある既存ストック（空き家等）の有効活用
		⑪若者が働きたくなる魅力的な雇用の場の創出
		⑫市街化区域内の未利用地の有効活用（民間活力の活用等）
		⑬安心して子育てができる教育施設周辺の安全性の確保
にぎわい･魅力づくり		⑭鉄道駅周辺等の都市機能の集積・連携
		⑮多様な機能が集積した新たなにぎわい拠点の創出
		⑯産・学・官が連携した中心部（大門等）の活性化
		⑰文教施設等既存ストックを活かしたまちづくりの推進と交流人口の増加
		⑱地域資源（中山間地域等）の活用による地域活性化
		⑲魅力ある景観の形成
自然環境の保全・活用		⑳緑や農地を守るための土地利用誘導
		㉑多種多様な資源を活かした地域づくり
移動しやすい交通環境の提供	道路網	㉒混雑の緩和（国道 23 号及び接続道路等）
		㉓渋滞回避を目的とした通過交通の適正処理
		㉔整備中路線の早期供用
	公共交通	㉕バス交通網（基幹バス）の路線・サービス改善
		㉖交通結節点における乗換の利便性向上（バリアフリー化等）
		㉗拠点間の利便性確保に向けた公共交通ネットワークの構築

３．緑地の保全及び緑化推進に関する課題

都市における緑は、環境の維持形成的な機能を持つとともに、自然や土との触れ合いの場としてのレクリエーション機能、都市災害の拡大防止や自然災害の発生防止などの防災機能を持っています。

また、都市に季節感や潤いを与え、地域の景観を形作るなど、都市景観に対しても大きな影響があります。

このように、緑は都市づくりにおいて多様な機能を担っている中、緑の現状は以下のとおりとなっています。

【緑に関する捉えるべき特性】

- 市街地の樹林地や農地は、開発により縮小傾向にあります。
- 市域の森林は、開発などにより面積が減少しています。
- 都市公園は、着実に整備は進められていますが、未開設な施設が残存します。
- 近隣公園や街区公園などの比較的小規模な公園については、今後、施設の老朽化などの問題も懸念されます。
- 大規模地震が発生した際に浸水が想定される沿岸部については、一時的な安全確保に寄与するような公園緑地などの整備が望まれます。
- 農地や市内に点在するため池は、台風や大雨による洪水の調整機能を有していることから、適切な保全が求められます。
- 市の玄関口の機能を有する鉄道駅周辺などにおいては、緑豊かな津市をイメージさせるような積極的な緑化が求められます。

上記のとおり、緑が有する機能を念頭に整理した緑の現況を勘案し、以下に４つの系統ごとに課題を整理します。

■緑地の保全及び緑化推進に関する課題

項　目	現況・特性からの課題
環境	①骨格を形成する緑の保全・活用
	②森林の再生
レクリエーション	③総合公園等の都市計画公園の整備推進
	④既存公園における利用者の安全・安心に配慮した持続的な維持管理
	⑤緑のネットワーク化
防災	⑥地域の防災拠点としての整備
	⑦農地やため池の保全
	⑧緩衝緑地の配置
景観	⑨駅周辺等、市の玄関口となる場の緑づくり
	⑩緑の核としての緑化の充実